

お知らせ

高3生へ

貸出中の本は1/20(土)までに返却してください。

1月末までに未返却本を回収します。

※ただし、入試や課題で必要な本や赤本は2月末まで貸し出し可能。

※自由に読書したい人で、2月末返却が約束ができる人なら信用して貸し出しいたします。

※卒業式までに必ず返却すること※

時事問題

1月の時事の欄
人生100年時代へ

これまでの80歳程度のライフプランを見直す必要があると言われていて。今後、自ら貯蓄や資産運用の知識を得て資金対策を講じる人が増えるだろう。人口減による労働力不足や老後の資金作りのためにも、今よりも「長く働く」ことが多くの人に求められるようになる。

【関連図書】 展示中

■『45歳から始める「金持ち老後入門！ 定年男子定年女子」』井戸美枝・大江英樹/日経 PB マーケティング
■『専業主婦は2億円損をする』橋玲/マガジンハウス
■『人口と日本経済 長寿、イノベーション、経済成長』吉川洋/中公新書
■『成熟社会の経済学 長期不況をどう克服するか』小野善康/岩波新書
■『2100年、人口3分の1の日本』鬼頭宏、大イファクトリー-新書
■『知らないと損をする池上彰のお金の学校』池上彰/朝日新書
■『結婚と家族のこれから 共働き社会の限界』筒井淳也/光文社新書

原田 マハ (はらだ まは)

本業が西洋絵画のキュレーターゆえに、画家や作品について史実を交えた創作をすれば比類なきアート小説になる。優美な文体が芸術の魅力を鮮明にする。一方の柱は王道のエンタメ小説。恋愛小説からお仕事小説まで起承転結はしっかりした満足感を残す。

孤高の画家ゴッホを支えた画商の弟 切ない兄弟愛
「たゆたえども沈まず」 原田マハ/幻冬舎



19世紀末、印象派絵画や浮世絵が注目されたパリが舞台。日本美術を世界に知らしめるために奮闘した二人の日本人画商と、その浮世絵に大きな影響を受け画家のゴッホと弟で画商のテオ、四人の魂が共鳴した時、あの傑作が誕生した！無名だったゴッホの絵は斬新で、権威的画壇からは印象派絵画と一緒に黙殺されていた。素晴らしい新しい芸術の誕生に情熱と苦悩で身を焦がした魂の物語。巻末の参考文献を頼りに史実と創作の境界を巡りたくなった。1/20より京都国立近代美術館でゴッホ展開幕！

お仕事小説 言葉で人の心を動かす仕事人
「本日はお日柄もよく」 原田マハ/徳間文庫



心を驚つかみにされる言葉、聞いたとたん心臓が熱くなるフレーズ、そんな言葉を駆使して人の心を動かす仕事人がスピーチライターだ。お気楽なOLが幼馴染の結婚披露宴で伝説のスピーチライター久遠久美の祝辞に心奪われ、彼女に弟子入りしたことで人生が変わる。本文中にも書き留めたい名言が数々あり、言葉の力強さ、こめられた気持ち、その伝え方のコツの数々にいちいち納得できる！心の中で思っていることを上手に表現したい人、言葉で気持ちを奮い立たせてほしい人にぴったりの元気のぞる本です。

マハの手にかかると、マンガも感涙小説に



「小説 星守る犬」原田マハ/双葉文庫
映画やアニメのノベライズといえば、セリフ中心で心理や背景の描写に乏しいものだが、しかし、マハの目と言葉を借りて世界を再構成すれば、原作の良さに加えて抒情性を備えた小説になるという好例。物語では、仕事・家・家族を失った男が愛犬ハッピーを連れて旅に出て、お互いにいたわり合う道中が描かれている。飼い主に向ける心からの眼差し。家族以上の絆が、美しく切ない景色になって空に広がる。(以上 千葉)

米澤 穂信 (よねざわ ほのぶ)

高校生が日常の謎を紐解く「古典部シリーズ」はアニメや実写映画にもメディアミックスされた人気作。人が殺されないライトなものから、後味の悪いダークテイスト、はたまたハイレベルな本格派ミステリまで、あらゆるプレイヤーを堪能させる推理小説家。

お菓子は出てきませんのであしからず…



「氷菓」米澤穂信/KADOKAWA

折木奉太郎は何事にも積極的に関わらない省エネ少年。なのに、なりゆきで古典部に入部したせいで不思議な謎を次々と解決していくことになってしまった！省エネ・ホータロー、天然お嬢様・える、データベース・里志、毒舌・摩耶花の古典部4人組。ホータローと里志の会話がレベル高すぎでとても高校生とは思えない。摩耶花のツンデレとえるの天然っぷりが可愛い。恋愛ものでない学園小説をお探しなら、古典部シリーズすべて気に入って読破するかも！

スイーツ好きにはこちらをおすすめ！



「春期限定いちごタルト事件」

米澤穂信/創元推理文庫

米澤穂信の描く誰も死なないミステリ本！小嶋くんと小佐内さんは、恋愛関係にも依存関係にもないが互恵関係にある高校1年生。小市民を目指す二人の主人公の前には頻りに奇妙な謎が現れる。名探偵面をして目立ちたくないというのに、気がつけば謎を解く必要に迫られてしまう小嶋くんは小市民になれるのか？古典部シリーズがよかった人には間違いなくおすすめ。トロピカル、栗きんとんと続けて読みたくなること間違いなし。

ミステリ？ホラー？ラスト1行に戦慄！！

「儚い羊たちの祝宴」米澤穂信/新潮社文庫



夢想家のお嬢様たちが集う読書サークル「バベルの会」。優雅な「バベルの会」をめぐる五つの事件からなる短編集。それぞれの短編の最後の一行で、それまでの印象をがらりと変える手法は、どれもちょっと、いや、かなり背筋がゾクとする。時代がかった優美な語り口とダークな物語がマッチして残酷さをさらに際立たせている。米澤作品として上記2作を思い浮かべていたなら、必ず裏切られます。(以上 梅谷)

知念 実希人 (ちねん みきと)

世の中に数ある医療ミステリーの中でも、作者が現役医師だからか、症例の説明がとてもわかりやすく、読みやすい！ただの謎解きだけではなくて感動要素もファンタジー要素も入って最後にホロリとしたり。デビューしてまだ5年！今後も、ますます期待大！

死神が左遷され地上の犬に！？

「優しい死神の飼い方」 知念実希人/光文社文庫



地上に降り立った霊的存在(通称『死神』)は、犬の肉体を借り、ホスピスで「レオ」として飼われることになる。死を間近にした患者達が持つ未練を解き放って、魂をあの世に送り届けることがレオに課せられた仕事。患者達の秘められた過去の未練は各々別々だと思っていたら、ホスピスを舞台に全て絡まり合っていた！さてどんなふうになら!? だけど読後は、納得のいく死に方についてしみじみ考えさせられた。レオに道案内をお願いしたい。

鷹央先生、キャラ、濃いです！

「天久鷹央の推理カルテ」 知念実希人/新潮文庫



天医会総合病院統括診断部部長、天久鷹央。超人的な記憶力・計算力・知能を持つ天才女医だが人格破綻者。病院の各科で「診断困難」とされた患者や外部から持ち込まれる不可解な事件を部下の小鳥遊を相棒に解決していく様子は痛快。作品の構成もいい！一話完結短編集かと思いきや終盤に向けてあちらこちらに伏線が仕込まれていたりして飽きさせない！一冊一話読みだが、続けてシリーズの次作品を読みたくなる！

作者初の恋愛×ミステリー！

「崩れる脳を抱きしめて」



知念実希人/実業之日本社

研修医の碓氷は、研修先の病院で脳腫瘍を患う女性・ユカリと出会う。心に傷をもつ二人は次第に心を通わせていく。実習を終え故郷に帰った碓氷に、突然、ユカリの死の知らせが届く。その知らせが信じられない碓氷の取った行動は!? ユカリの死の真実は!? もちろん医療ミステリーなだけでなく、超ラブストーリー！二人の距離が縮まって行く描写も丁寧でいい！最後の最後までページを閉じられない！(以上 田中)